

# まちなみ保存施策への提言 修復の専門家から まちづくりの専門家へ

建築家  
都市環境マネジメント研究所研究員  
松本大建築設計事務所代表  
松本大

金沢には、金沢職人大学校という学校がある。伝統的な職人の技能の伝承と人材の育成を行い、資料の収集、調査及び公開を図り、文化財修復等を通

じ、匠の技への高い社会的評価と一般の理解と関心を深めることを目的として設置された、金沢市が主体となって運営されている社団法人だ。私も四期

生として三年間、修復専攻科で研鑽し、昨秋卒業した。建物の修復を学ぶ修復専攻科は、職人が技能を習得する本科の上位に位置づけられ、本科を修習し

た職人建築士、行政職員が学んでいる。本特集、重伝建黒島地区における角海家住宅復元工事を担当された武藤氏は、修復専攻科の一期生にあたる。修復専

攻科修了者は金沢市より「歴史的建造物修復士（以下修復士）」に認定される。このエリアにおいて、古民家再生等で活躍する設計士の多くは、歴史的建造物修復の技能を修めた修復士である。単体での歴史的建造物の修復において一定の成果を挙げてきたと言えよう。

本特集のテーマである「重伝建選定を生かす地域活性化」をよく実現していくために、十年あまりにわたる「修復士」制度をステップアップしていく必要がある。単体としての文化財修復を面として展開していくこと、また、歴史的まちづくり、都市計画・地域計

画、地域経済の

循環への視点を持ち、相互に関連させて、マネジメントしていく能力が求められることが容易に想定されるからだ。

ここではそのヒントとして、兵庫県において推進されてきた「ヘリテージマネージャー（以下HM）制度」を紹介したい。兵庫県では阪

神淡路震災の経験を契機として、「歴史的建造物の修復を担うマネジメント能力を備えた建築家の育成」が要請され、平成十二年より「循環型社会における歴史的文化遗产の活用方策」を進めるため、兵庫県教育委員会が文化財を再発見し、保護し、活用を推進するHMの養成を全国に先駆けて実施してきた。

HMの育成によって実現される資質として、①歴史・文化的価値の評価、②保存・活用の計画策定、③まちづくりへの参画能力が目指された。平成十三年より養成講習会が開講された。HMはまちづくり活動団体に派遣され、景観アドバイザーとして活動し、景観形成等推進員を構成している。HM相互のネットワークが構築され、全県版ネットワークと地区世話人を核とする地域ネットワークが設立されている。HMの活動は地域再生を見据えた施策とも同期して、文化財登録、修理事業からファンド形成、イベントにまで展開している。（出典：「季刊まちづくり」25号）

全国的にも、修復保存技術研修の事例として、金沢の修復士制度は先駆け事例であり、評価も高い。設定されているカリキュラムの深度は、他にひけをとらないものである。ただ、今後の重伝建制度を生かした歴史的まちづくりにおいて、HM制度から学ぶべき点として二点あげたい。

ひとつは、保存修復のみならず、保存・活用の提案や融資・助成の活用、まちづくりとの整合性の調整等、歴史的資産を生きた活動として捉えていく視点を持つこと。もう一点は様々な活動を誘発するためのオープンエンドなネットワークの形成であろう。

金沢は素晴らしい修復士制度を育んでおり、HM制度をそのまま導入する必要もない。修復士が歴史的まちづくり・地域マネジメントの視点におけるカリキュラムを付加的に習得することにより、「重伝建指定を生かす地域活性化」に寄与することができるのではないかと考えなのだ。



金沢職人大学校修復専攻科の実習風景。地元の歴史的建造物を教材に、修復実務に必要な知識と技術を学んでいる。